



2021年4月21日
東日本旅客鉄道株式会社

品川開発プロジェクト(第I期)における高輪築堤の調査・保存について

- JR東日本が進めている品川開発プロジェクトエリア内で出土した高輪築堤（以下、「築堤」）について、考古学・鉄道史などの有識者で構成された高輪築堤調査・保存等検討委員会（以下、「委員会」）において、調査・保存のあり方を議論・検討してきましたが、このたび、調査・保存方針が取りまとめられました。
 - ・ 橋梁部を含む約80メートルおよび公園隣接部約40メートルの2箇所を現地保存とする
 - ・ 信号機土台部を含む約30メートルを移築保存とする
 - ・ 記録保存箇所については、詳細かつ慎重な調査を行う
- 委員会における取りまとめを踏まえ、現地保存・公開などの検討に着手するほか、諸分野の知見に基づき、詳細かつ慎重な記録保存調査を進めます。
- 現地保存・公開箇所において一部の建物計画を変更することとし、2024年度のまちびらきに向けて、必要な都市計画などの変更手続きについて、関係行政と連携して進めます。
- まちづくりの中で、150年前に構築された高輪築堤の価値を次世代に継承することで、地域の歴史価値向上、地域社会への貢献とともに新しいまちの価値向上を目指します。

1. 築堤の調査・保存方針に関する取りまとめについて

2020年9月から委員会が計7回開催され、以下のとおり取りまとめられました。

(1) 築堤の文化財的価値の評価

- ・ 日本の近代化土木遺産を象徴する遺跡として、重要な位置を占めている。
- ・ 橋梁部（3街区）は、明治時代の錦絵に描かれた当時の風景をそのまま残しており、西洋と日本の技術を融合して造られたものと捉えることができる。
- ・ 信号機土台部（4街区）を含む前後の築堤は、鉄道らしい景観を呈している。

(2) 調査・保存方針

- ・ 橋梁部を含む約80メートル（3街区）を現地保存とする。
- ・ 残存状況が良好である公園隣接部約40メートル（2街区）を現地保存とする。
- ・ 信号機土台部を含む約30メートル（4街区）を移築保存とする。
- ・ 記録保存箇所については、詳細かつ慎重な調査を行う。

2. 委員会の取りまとめを踏まえた当社の取組みについて

委員会での取りまとめを踏まえ、以下を基本として保存などに関する具体的な検討を進めます。

(1) 現地保存・公開

・橋梁部

橋梁部を含む約 80 メートル（3 街区）について現地保存を行い、建設当時の風景をそのまま感じられるように公開します。



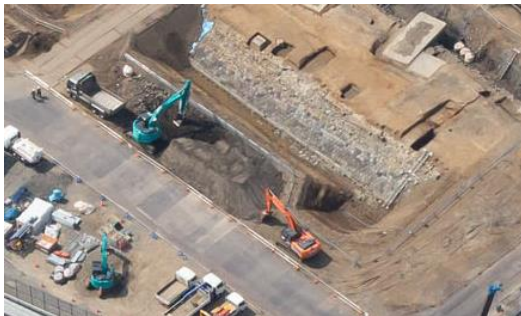
現在の橋梁部の様子



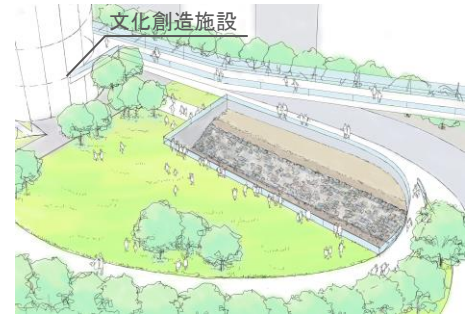
橋梁部の現地保存のイメージ

・公園隣接部

公園隣接部の約 40 メートル（2 街区）について、文化の発信拠点である文化創造施設と一体的に公開することで、築堤を身近に感じられるようにします。



現在の公園隣接部の様子



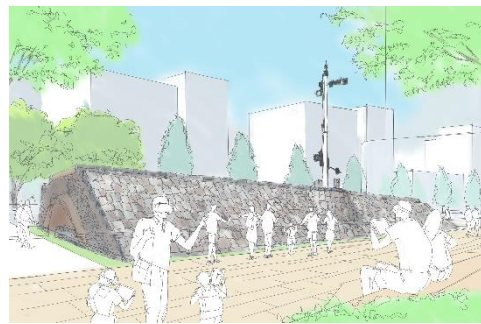
公園隣接部の現地保存のイメージ

(2) 移築保存

信号機土台部を含む約 30 メートル（4 街区）を移築保存します。移築先は高輪ゲートウェイ駅前の国道 15 号沿いの広場を基本に検討および関係者と調整を進めます。移築保存にあたり、丁寧に記録保存調査を行います。



現在の信号機土台部の様子

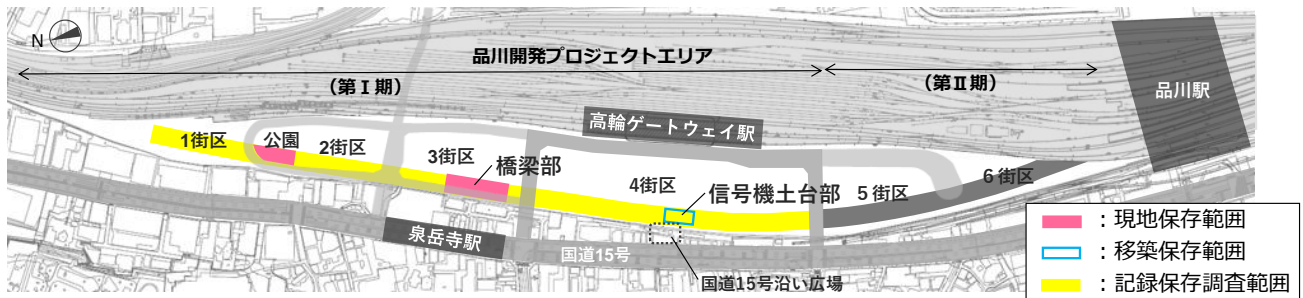


国道 15 号沿いの広場に移築保存した場合のイメージ

(3) 記録保存調査について

以下の図の調査範囲については、港区教育委員会と連携して、考古学・鉄道史・土木史などの諸分野の知見に基づいた調査を進めます。この調査では、築堤から取り外した石や杭を計測・記録するほか、築堤内部の土層の状況も調査・記録します。

なお、橋梁部、公園隣接部のほか、築堤を土の中に埋めたまま現地保存できる範囲（道路下等）は調査対象から除きます。



記録保存調査範囲

3. 建物計画などの変更について

橋梁部（3街区）などの現地保存・公開を進めるため、3街区建物などの計画変更を行います。計画変更に必要な都市計画などの変更手続きを、国、東京都、港区などの関係行政と連携して進めます。

4. 今後のまちづくりについて

- ・まちづくりの中で築堤を保存・公開するにあたり、最新技術を活用して当時の築堤の景観を体験できる展示や、まちづくりの中で連続的に築堤位置を感じられる工夫をすることで、築堤の価値を次世代に継承し、地域の歴史価値向上と地域社会への貢献を目指します。
- ・周辺地域を含めた歴史・地域文化を学べるプログラムの実施を検討します。
- ・品川開発プロジェクト（第Ⅰ期）は、2024年度のまちびらきに向けて検討を進めます。

<品川開発プロジェクト（第Ⅰ期）概要>

国家戦略特別区域計画に認定されている「品川開発プロジェクト」においては、国内外から先進的な企業と人材が集い、多様な交流から新たなビジネス・文化が生まれるまちづくりを目指しています。「グローバルゲートウェイ品川」をコンセプトに、国際交流拠点として、オフィス、商業、ホテル、コンベンション、文化創造施設などの複合用途の導入を進めるとともに、周辺地域との防災連携などを図ります。また、未来に向けた実験の場として、さまざまな技術の実装やビジネス創出を行う先端的なまちづくりを進めます。



TokyoYard PROJECT

新たな文化・ビジネスが生まれ続けるための仕組みづくりの一環として、この場所を舞台にあたらしいものを生み出したい人たち、またそれを支えたいと思う人たちを集め、共創していくための取組みが稼働しています。

<https://tokyoyard.com/>